

## マタイの福音書 第6章 24節

「だれも、ふたりの主人に仕えることはできません。一方を憎んで他方を愛したり、一方を重んじて他方を軽んじたりするからです。あなたがたは、神にも仕え、また富にも仕えるということはできません。」

そもそもふたりの主人を持つこと自体に無理が生じる。主人はひとりである筈だ。それなのに、このように無理なことをわざわざ取り上げるのは、無理を承知で主人を使い分けする者がいるからだろうか。それとも、気付かずにやっつてのける者がいたからだろうか。だからあえて、ふたりの主人に仕えたなら、一方を愛し、重んじると語られる。しかし、他方を憎み、軽んじることになると現実を明らかにする。そのような振る舞いをしていることを明らかにする。二人の主人を天秤にかけ仕えることになる。それでは、主人に仕える者の位置が逆転し、自分が主となる。とんでもないことである。

それに、ふたりの主人に仕える者の心に起こるのは亀裂であり、不信であり、計りであり、混乱である。結局は主人を見失い、仕える場を失ってしまう。だから、イエスは言われる、「あなたがたは、神にも仕え、また富にも仕えるということはできません。」あなたがたは、一つのところで神に仕えなさい。それがあなたである。